

第514回 IBC番組審議会

1. 開催日時 平成18年11月15日(水)午前11時

2. 開催場所 デジタルセンター3F Dホール

3. 委員の出席 委員数 11名
出席委員数 7名
出席委員の氏名
委員長 吉沢 正則
副委員長 田代 高章
委員 伊藤 史典 小松 務
澤口たまみ 宮澤 徳雄
矢佐 俊幸

欠席委員の氏名 河村 泰信 熊谷志衣子
高橋 健悦 米谷 春夫

会社側出席者
阿部 正樹 代表取締役社長
川島 敬司 常務取締役
菅野 秀樹 取締役テレビ営業局長
柴田 継家 報道局長
川上 隆 ラジオセンター長
鎌田 英樹 テレビ編成局長
角館 郁也 制作部長

事務局
馬場由紀子 番組審議会事務局長
小笠原 勉 番組審議会事務局次長

4. 議題 秋の新番組について
北東北の大動脈～仙岩道路開通30年

5 . 議事の概要

< 委員の主な発言 >

- ・ 仙岩道路 30 年」について、産業や観光面で道路ができて発展することは理解できるが、医療の面でも大きな意義があること、防火・防災訓練、道路の補修、24 時間の監視体制など普段見えないような部分に光を当てており、地方局として必要な番組だった。
- ・ 静かな町だった角館が、年間 260 万人の観光客が訪れる町になったことや、秋田側から高次救急センターへ患者さんを搬送する上でも仙岩道路が大きな役割を担っていることを知った。
- ・ 最近公共事業に対する風当たりが強いので、今回の番組のような形できちっと必要性和経済効果を説明する。そういう説明責任を果たしていくことが重要だということで意味がある番組だった。

- ・ 番組改編時期に魅力ある番組が少ない。4 月、10 月が楽しみになるような魅力的な番組を考えて欲しい。
- ・ 日曜劇場「鉄板少女アカネ」は、構成や映像の至るところに漫画チックな大げさなところが出てきて、今までの TBS のホームドラマのイメージとはかけ離れた印象を持った。視聴者のホームドラマ離れが起こって、結局こういう番組を作らざるを得ないのではないか。
- ・ 人気コミックのドラマ化が多い。ある程度視聴率を見込めるということで、悪く言えば冒険していない、よく言えば手堅いという印象を持った。ドラマの TBS として、今までなかった新鮮な番組づくり、もっと冒険が必要ではないか。

< 社側 >

- ・ 今年、仙岩道路開通 30 周年ということで、国土交通省の岩手河川国土事務所の協賛をいただいて制作しました。
今回は岩手と秋田を結ぶ大動脈ということで、秋田でも秋田テレビで放送することができました。周年番組としてはこういう歴史について紹介できたのはよかったですと思います。ご指摘等を参考にしながら今後も作っていければと思っています。